

足立区



面積	53.25km ²
世帯数	374,640世帯
人口	694,725人
(うち外国人)	40,119人
予算	3,300億円
職員数	3,631人

歴史・見所・名所

「足立」の名の由来は、一説によると、かつて大河川に接する低湿地で、たくさんの葦が生えていたことから「葦立ち」と呼ばれ、そこから「足立」になったとされています。

松尾芭蕉の『おくのほそ道』旅立ちの地としても知られる千住の街は、江戸時代に日光街道・奥州街道第一の宿場「千住宿」として整備され、陸運・舟運に恵まれていたこともあり、人口約1万人の江戸最大の宿場町として発展。令和7(2025)年には開宿400年の節目の年を迎えます。

現在も、当時の旧家や昔ながらの路地、銭湯、祭りなどの下町情緒を残す一方で、5つの大学が集積し、若者や女性に人気の店舗や、古民家をリノベーションした個性的な店舗が増えるなど、古さと新しさが絶妙に交じり合う人気スポットとなっています。

このほかにも、区内には創建826年、空海が建立したと伝えられる関東三大師の一つ「西新井大師」や、国内最大級のネット遊具や23区最大のプラネタリウムがある体験型複合施設「ギャラクシティ」などが点在し、大人も子どもも楽しめる、ぶらり歩きが似合うまちです。

概要

足立区は23区の最北端に位置し、四方を川に囲まれており、荒川をはじめとする水辺や、公園の緑など、豊かな自然環境を残しています。この数十年間で、つくばエクスプレスや日暮里・舎人ライナーの開通、区内を縦横に巡る9路線(令和7(2025)年4月1日予定)のコミュニティバス「はるかぜ」などにより交通の利便性も高まり、西新井駅西口周辺地区や新田地区、千住大橋地区などの大規模集合住宅開発が行われたことから、総人口は69万人に達しました。

近年では、花畑エリアで区内6つ目の大学となる文教大学東京あだちキャンパスが開設、江北エリアで区内初の大学病院となる東京女子医科大学附属足立医療センターが開院、竹の塚エリアで鉄道高架化が実現するなど、ハード面の整備が大きく進んでおり、今後も北綾瀬、西新井の各駅前交通広場整備などが控えています。

また、民間の活力を利用した地域のにぎわい創出、都市機能や防災機能の強化に向けた取組として、綾瀬や六町、千住大橋など、街の魅力づくりとなる駅前開発も進行中です。

足立区は未来を見据えて、日々着実に歩みを進めています。



区の木「桜」

葛西用水親水水路は、水路沿いに300本以上の桜が植えられ、春には見事な開花が楽しめます。



区の花「チューリップ」

荒川河川敷の虹の広場、都市農業公園の大花壇などが有名です。

主要課題

(1) 自然災害に対する備えを強化し、安全なまちをつくる

足立区は軟弱な地盤や木造密集地域を抱える他、四方を川に囲まれていることから、大地震や台風などの際に大きな被害を受けるリスクが高いため、災害から区民の命を守る取組を強力に推進しています。特に、震災対策については、建築物の耐震化を早期に推し進めるとともに、発災時に備えて災害備蓄品の増強を図っています。

(2) 区民に寄り添い、暮らしを支える施策を展開

令和14(2032)年に迎える区制100周年を見据え、未来にわたって区が成長し続けるための原動力となる子どもや若者世代に対する支援を強化し、生き抜く力を育てていきます。また、あらゆる相談を受け止め、包括的支援を行う「福祉まるごと相談課」を設置し、地域共生社会を実現するための重層的支援体制の整備を進めています。

(3) エリアデザインの展開による戦略的なまちづくり

魅力的なまちの将来像を描き、民間活力の誘導や区有地等の活用を効果的に行うことで区のイメージアップを図る独自のまちづくりの手法「エリアデザイン」を7つのエリアで進めています。ハード面だけでなく、ソフト面においても、各エリアの核となる施設等を中心としたまちづくりを進めており、地域特性に応じたまちの新たな魅力創出に向けて取り組んでいます。

(4) シティプロモーションで区のイメージ転換を図る

区を取り巻くマイナスイメージの根本原因である「治安・学力・健康・貧困の連鎖」の4つのボトルネック的課題の払拭に、区をあげて注力してきました。直近では、区外における足立区の現実とイメージのギャップを解消するため、「ワケあり区、足立区。」のキャッチコピーのもと、足立区の魅力や先進性などプラスの情報を広く発信し、マイナスイメージの払拭をめざしています。

将来展望

平成28(2016)年10月、30年後を見据えて策定した区の基本構想では、区の将来像を「協創力をつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち 足立」と決めました。

将来像を実現するための取組を「ひと」「くらし」「まち」「行財政」の4つの視点で整理し、地域課題の解決や新たな魅力の創出のために、行政主導による取組だけではなく、区民、団体、企業、NPOなどの多様な主体がゆるやかにつながって自立的に取り組む「協創力」を高め、「やりたいことができるまち」「誰もが主役になれるまち」「自己実現ができるまち」をめざしていきます。

令和4(2022)年5月、足立区は内閣府から「SDGs 未来都市」と「自治体SDGs モデル事業」にダブル選定されました。さまざまなステークホルダーとのパートナーシップで、SDGsを原動力とした持続可能なまちづくりの取組を更に加速していきます。



足立の花火

約1万3千発の花火が夜空を彩る夏の風物詩です。



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン=未来

エリアデザイン

各エリアでまちに大きな動きがあり、100年に一度の変化の真只中です。



ワケあり区、足立区。

マイナスイメージを逆手に取ったキャッチコピーで、足立区のプラスのワケを伝えています。



あやセンター ぐるぐる

自治体SDGsモデル事業選定に伴いオープンした、「やりたいことを、やってみる。」がコンセプトのSDGsの拠点です。